

# 2024年度 自己評価書

学校法人 北海道キリスト教学園  
認定こども園 函館ちとせ幼稚園

## 1. 園の教育目標と教育方針

教育目標	明るく元気で優しい子（神に愛されている子ども）	
教育方針	キリスト教の愛の精神に基づいた教育・保育をするなかで、教師は幼児のもっている可能性を十分伸ばすように手助けをする。自立するために家庭との連絡をしつつ保育方針に不一致のないよう教育・保育をし、幼児の豊かな心と体の成長を育む。	
キリスト教の愛に根ざした保育		
・愛の心を育てる	・遊びの中で学ぶ	・社会性を育てる
・健康な体づくりをする	・自然に親しむ	・知育、集中力を養う

## 2. 本年度重点的に取り組む具体的な目標や計画

①子どもにとって、今大切なことは何かを教職員で話し合い行事を計画する。各学期（保護者の感想、意見を含）に教職員で振り返りを行い、年度末の総合的評価をし、次年度の重点目標と計画を立案し遂行する。
②子ども一人ひとりが心身共に豊かに成長ができるよう、寄り添いつつ日々の教育・保育をすすめる。
③教職員は教育計画に沿って日々の教育活動で意思の疎通をとりながら教育・保育をすすめる。
④一人ひとりの育ちを理解し、子どもの主体性が育つようにする。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※ A…十分達成 B…おおむね達成 C…改善を要する

評価項目	評価	取り組み状況
幼稚園教育要領を理解し、園の教育理念と教育方針のもと、保育の計画を立案し日々の保育を進める。	A	教育理念に基づき、教育課程の編成及び保育計画の策定を行い計画は現実の保育に沿うよう具体的に立案した。キリスト教保育誌を読み感じたことや学んだことを教職員の掲示板に書き込み、園長もコメントの書き込みをすることにより共通理解をすることができた。
子どもの育ちを理解し、実態を的確に把握し、教職員が共通の理解をもつ。必要な手立てを考え子どもにあった援助をする。	A	保育教諭は保育を省み記録を行い、次の日の円滑な保育ができるよう努めた。ミーティングで、園全体の子どもたちの様子を話し合い、育ちに必要な援助と手立てを考え、指導案の作成に反映させるとともに、ICTツールを活用し会議でできなかった保育教諭も会議内容を確認でき、追記なども活用して共通理解を図ることができた。
園全体の教育成果と課題、目標の達成の度合いを学期ごとに振り返り、保育の推進をはかる。	A	各クラスや学年で目標としてきたことを学期毎に話し合い達成状況を確認し教育の再構築をする。また各行事終了後には成果と次年度に向けての課題を明確にし、計画を立案している。

健康な体と基本的な生活習慣の自立にむけ保護者との連携をとる。	A	基本的な生活習慣が身につくよう保護者と連携をとり年齢や個別に合わせ援助する中で排泄の自立へと繋がった子どもが多かった。
子どもたち同士が遊びを通して工夫し、考え、協力できるような環境をつくる。	A	子ども自らが工夫して遊び、個々が友だちと協力して遊べるような環境づくりを心がけた。色々な素材や廃品などを準備し、子どもが自ら選べる環境を整えた。子どもがサークルタイムなどで意見を出しあい、自ら考え工夫できるようにした。
防災教育。避難訓練と緊急時の保護者との連絡方法の確立。	A	今年度も各家庭へ緊急時の園児引き渡しカードを作成し、緊急連絡方法の徹底を行った。園バス送迎中の緊急時のマニュアルの確認、置き去り防止装置の設置や全園児がSOSボタンを押せるよう訓練を行った。地震が起きた時の体制などはシェイクアウトにも参加した。避難訓練は毎月行い、様々な想定を考慮し訓練を行い、改善点を踏まえ次の訓練に活かし緊急避難体制をとることができた。
園の教育目標や方針、保育の計画を保護者へ発信する。	A	園便りなどで教育方針や取り組みを折に触れ手紙で発信し、相互理解ができるよう工夫してきた。ホームページの『保育のスケッチ』や毎週クラスごと配信する『ホワイトボード』でタイムリーな情報を発信することができた。
特別支援教育を必要とする子どもたちへ発達に添った保育をすすめる。	A	支援を必要とする子どもや個別に声掛けが必要な子どもが増えている中で、一人ひとりに合わせた保育に苦慮した。保護者への対応は来園していただき成長や課題を話し合えた。今後も更に学びを深め一人ひとりの心に寄り添った援助をしていきたい。

#### 4. 今年度の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>教職員が日々の保育の中で子ども一人ひとりの育ちを共通理解し保育をすすめた。保護者への情報発信は必要に応じて、園便り、ホワイトボード、ホームページで伝えることができた。異年齢の交流や5歳児が0・1歳児のお世話をするミニ先生は思いやりの気持ちが育われ成長へと繋がった。コロナ禍の中で中止していた。柏野小学校との交流も再開して小学校への期待を持つことができた。学年での活動や交流を行い学年全体で子どもの興味関心を広げられるよう環境を設定し、子どもの声をひろい主体的に遊べるよう計画を立案し保育に活かすことができた。市民の森で親子遠足を予定していたが、雨が降り、園での親子レクレーションを行った。短い時間ではあったが有意義な時を過ごした。行事は分散して行って良かった点を踏まえ、今年度もクラスごと時間差での行事を行い保護者からも良い評価だった。畑で育てた大根を収穫し大根サラダとドレッシングを工夫して作ったり、芋もちを作って食べたり、食育も実習室を使い行う事ができた。テラスではアサガオを育て観察をしたり、シャボン玉や水遊びなどをしたり、冬場は氷の実験をしたりと有効活用ができた。参観日にはキッズコーディネーションや触れ合い遊びなどや普段の保育を参観していただき保護者からはとても良かったとの声をいただいた。また、各学期末の参観も行い一年の成長を参観していただけたのは良かった。終了後のアンケートで、意見や感想を求めた。アンケート結果を踏まえ来年度更に保育の質の向上を図っていきたい。</p>

## 5. 今後取り組むべき課題と改善の方策

課 題	具体的な取り組み方法
子育ての支援の充実	P スクールたまご組の親子登園の年齢の枠を広げるとともに、すくすく広場・ちびっこ広場など、少子化や核家族化が進む中で悩みを抱えている保護者や安心して子どもを遊ばせたい保護者のニーズに合わせた子育て支援の充実を図る。
保護者への連絡と対応	保護者の園に対する保護者アンケートに記入された点ではメール連絡網により信頼感が構築できた。ホワイトボードが好評だったため、よりタイムリーな子どもの様子の配信をしたり、手紙やお知らせもメール連絡網で情報を発信したり更に改善をすすめる。
環境改善	より良い環境の中で保育・教育ができるようまた教職員の業務改善の取り組みを更に充実させICT も活用していきたい。
小学校との接続	コロナ禍の中で中止していた柏野小学校との交流も再開して小学校への期待を持つことができた。次年度は小学校との円滑な接続ができるよう職員同士の意見交換を図る。
多様化のなかでの教職員のチームワークを考える	0歳から就学までの一貫した保育・教育に力を入れるとともに職員間の話し合い、更に個別の話し合いの時をもち、同じ方向性で子ども主体の保育を考え、子どもの声をひろい遊びを広げられるよう今後も取り組んでいく必要がある。

## 6. 函館ちとせ幼稚園運営委員会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方たちの信頼関係を受けているのは、素晴らしい。その中で、先生たちも子どもたちも心が豊かになっている。先生たちもきめ細やかになさっていることは嬉しい。笑顔溢れる園が基本的に一番大切なことで、いいことです。</li> <li>・園の運営委員より良好という意見をいただいた。</li> </ul>
---

## 7. 函館ちとせ幼稚園第三者委員の意見

<p>園の教育方針に沿った1年の計画が、きちんと前年度の反省を踏まえたものになっているだけでなく、その計画に対する更なる反省が丁寧に行われていると感じました。</p> <p>保護者の方のアンケートの中にたくさんの感謝の言葉があり、教職員の皆さんの日々の努力が実を結んでいます。特に、保護者の方からの「自分たちへ、園からの要望があれば発信してほしい」という意見からは、教職員と保護者の良い関係が構築されていることが理解できます。</p> <p>「個性を伸ばす」ということに重きを置くと、ともすれば集団生活でしか学べない子どもの心の成長が置き去りになってしまう懸念があります。しかしアンケートからは、子どもが他者の意見を聞いたり、気持ちに折り合いをつけたりすることを学ぶ様子と、それを温かい目で見ながら対処する親御さんと先生方の様子がうかがえます。</p> <p>どんどんと移り変わるICTへの対応もご苦労の多いことだと思いますが、今のちとせ幼稚園が持つ、子どもたちの笑顔と、生き生きとした教職員の皆さんのお仕事ぶりを来年度も続けてくださることを願っています。</p>
--